



desknet'sの表示画面例【グループメンバーの週間スケジュール】

紙の付箋と同じ使い方

アラーム機能

自分の一番上、その下にメンバーのスケジュールが出る

外とあるのが外出ね!

メンバーの画面に伝言を貼れる付箋機能やスケジュールを覚えてくれるアラーム機能も便利だよ!

の機能を利用しないかもしれないが、活用段階に応じて随時機能を増やしていくことができる。

後から機能を追加購入するソフトの場合、トータルコストが高くなりやすい。desknet'sは多機能であるにも

使い方に迷っても大丈夫!

表示中の画面に関する使い方の説明

操作マニュアルを調べなくてもすぐわかるよ!

グループウェアを使う上での鉄則は、「皆が必ず情報を入れること」である。一人でもスケジュールを入れない人がいたら、正しい空き時間がわからず会議予定も決められない。運用がうまくいかなければソフトウェアはその威力を発揮できないのだ。したがって、グループウェアを選ぶ際には何よりも使いやすさに重点を置きたいものだ。

誰もがスムーズに操作できることを追及した製品として挙げられるのが、ネオジャパンの「desknet's(デスクネッツ)」である。すでに2万7500社、115万人の導入実績をもち、利用者の様々な声が反映されたグループウェアだ。

操作に不慣れでも戸惑わないよう、画面を開くと、右側に「ヘルプ」が表示される。ここには今利用している機能についての説明や操作方法が示されており、随時参照できる。わからないことがその場で調べられ、マニュアルで探す必要もなく便利だ。また、入力操作の90%近くはマウスで行えるから、パソコンの初心者でも心配はいらない。

グループウェア
製品紹介

desknet's
(デスクネッツ)

必ず使いこなせる親切な設計

かかわらず低価格。5ユーザーまで使える「5ライセンス」製品なら3万9800円だ。

仮に限られた機能しか使わないとしても、検討しやすい価格とこえる。「モバイル対応版」を使えば携帯電話やPDAからスケジュールを参照することも可能だ。

一方、すべての機能を当初から一括して組み込んだことで、それぞれの機能を連携させることができた。例えば会議スケジュールを設定中に会議の場所を決めようとすると、自動的に設備予約の機能に切り替わり、会議室予約も同時に行える。メンバーへの会議開催通知も「メールで通知」という項目をチェックするだけで送信可能だ。各機能が連携していないグループウェアでは、会議室を探すために設備予約の機能を開き、また参加者に知らせるためにはメールソフトを開いてメールを出さなければならぬ。しかし、desknet'sでは利用者の動きに合わせてソフト側が切り替わるから、流れるように作業を進めることができるのだ。

中小規模の事業所では、一人が複数の業務を兼任し、処理すべき項目も多

い。ついつい。ついつい。ミスもおこりがちだ。desknet'sには「忘れたい」ための便利な仕組みもついている。二つほど紹介しておこう。

一つは「付箋機能」。画面上に紙の付箋のようにメモを貼れる機能だ。自分以外のメンバーにもつけられるので伝言メモも間違いなく届く。

もう一つはアラーム機能。「会議の5分前」「来客の30分前」など、登録したスケジュールが近づくとメールで通知してくれるのだ。時間管理を徹底したい人にはうってつけといえるだろう。

desknet'sはホームページからソフトをダウンロードして60日間無料で試用することが可能だ。その使いやすさをまず体験してみたい。

お問い合わせ先
株式会社ネオジャパン
住所:東京都港区南青山2-22-18
北川第一ビル8F
URL: http://www.desknets.com/

desknet'sスタンダード版 ライセンス価格表(抜粋)	
5ライセンス	39,800円
10ライセンス	64,300円
50ライセンス	198,000円
スケジュール等5機能のみを利用できるライト版	
50ライセンスのみ	95,000円

desknet'sは「スケジュール」設備
低価格ながら
20機能を備える

機能連携のないグループウェア

①まずスケジュール画面
②次に別の画面
③また次の画面……

スケジュール機能
会議室予約機能
メール機能

10:00~11:00に会議!
どの部屋が空いている? えっと、何時からだった?
会議のお知らせをメールで通知! 山田さんと、えっと……

結構めんどろ……

各機能が連携するdesknet'sの場合

スケジュール
会議室 → 会議する場所を選ぶと部屋も同時に予約される。
メール → 「メール通知」を選ぶと参加者にメールが送られる。

部屋は102だ! メール通知をしておこう!

簡単でスマート!

機能が連結すると便利

予約」「電子会議室」「プロジェクト管理」をはじめ、20にのぼる豊富な機能を備えている。導入当初はすべて